

常陸太田市 地域おこし協力隊広報誌

おかげさま

令和3年度
地域おこし協力隊
活動レポート



常陸太田市 企画部 少子化・人口減少対策課
常陸太田市 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊」として委嘱します。

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を生かした活動
- 理想とする暮らしや生き甲斐発見

地域

- 斬新な視点（ヨソモノ・ワカモノ）
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与える

地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化

※総務省資料より引用

隊員は、おおむね1年以上、最長3年間、地域に居住して、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など「地域協力活動」に従事し、地域の活性化につなげるものです。



<http://>

常陸太田市
地域おこし協力隊
ホームページ

 facebook



常陸太田市内で活動中！

常陸太田市では、平成23年度から地域おこし協力隊員を受け入れ、地域の方と連携を図りながら、各々のミッションを通じて、地域の活性化を目指す取り組みを進めています。

令和3年度は、5名の隊員が様々なミッションに取り組んでいます。最新の活動については、SNS等で情報発信を行っています。各QRコードからぜひご覧ください。

CONTENTS

特集1：隊員たちの活動紹介

P3～12



移住定住PR

空き家バンク支援

P3～

橋本 大輝



移住定住PR

子育て支援

P5～

橋本 あゆみ



ナチュラルチーズ職人

P7～

亀井 わかな



農業の担い手

なし栽培

P9～

俵谷 昂樹



農業の担い手

ぶどう栽培

P11～

松原 勝之

特集2：協力隊員たちの座談会

P13～14

「～移住者最前線～」

家族の時間が増えたいばらき暮らし、 遊び場に困ることはありません。

はしもとひろき

橋本 大輝

山口県下関市出身・2年目
(令和2年11月～活動開始)

特技

和楽器・三味線

趣味

釣り・サーフィン

挑戦しているコト

都々逸



移住をきっかけに

高校卒業後、日本の伝統音楽である民謡や津軽三味線のプロを目指して、山口県下関市から、上京しました。在京時は、都内を中心に全国各地で演奏活動を行なっていました。

結婚をし、子どもが生まれ、公私共に充実していましたが、コロナによる情勢の変化もあり、働き方、生き方を見つめなおす転機が訪れました。

家族会議の結果、二拠点居住期間を経て、妻の地元である常陸太田市への移住を決意。令和二年十一月から地域おこし協力隊としての活動を開始しました。活動当初は地域に馴染むまでは、言葉や文化、習慣の違いに戸惑うこともありましたが、これまでの人生で培った民謡や三味線をきっかけに、市民の方との交流を広げられることは自分の強みだと思えます。

常陸太田市の印象はとにかく土地が広い印象。古くからある建物も多く、まるでタイムスリップしたような気分になれます。

また、自然の公園がいくつもあり、子ども達が元気に遊ぶ光景を見ると、私自身も癒されます。

そして、なんととってもソバが美味しい。常陸太田のソバを食べ始めて初めて、「ソバってこんなに美味しいんだ。」と感じました。

高速のインターや常磐線・水郡線へのアクセスも良いことがわかり、都心からの距離もほどよく、演奏活動での移動もある私にとってはとても住みやすい所でした。



メゾンケンボクでの演奏中のヒトコマ
県北地区の協力隊の協働開催イベントで
「誰でもカンタン！和楽器演奏！！」
を企画。YouTubeでの中継配信も。

幅広いミッション

移住定住に関することや空き家バンク登録促進のための活動がメインミッションです。

空き家バンクへの登録促進活動も行っています。役所まで出向くほどではないが、気になる空き家がある方など、お気軽にお声かけください！

協力隊になってから、空き家について取り組み始めたので、測量方法や、家主とのコミュニケーション、設備の補修の仕方等、学ぶことの多い日々を過ごしています。

市内のイベントや、学校・保育園等での演奏・和楽器体験会の依頼を頂くことも多く、市民の方々が喜ぶ様子を目にするのが常陸太田市に来てよかったなあと感じます。

着任以来、世矢公民館を中心に、「きんようみんよう」とい

定期的な公開練習会を行っています。近所の皆様と一緒に楽しい時間を共有する中で、空き家の話題がでたり、町の情報を聞くこともあり、意欲的に続けています。

町を知ることが第一階段だと考えており、常陸秋そばスタンプラリーを制覇したり、竜神大吊り橋でバンジーをしてから演奏する等「楽しむこと」を忘れずに活動してきました。市外の協力隊との交流も多く、移住者や地域に関わる仲間が増えてきています。



移住記念に、竜神大吊り橋バンジーに挑戦！！

この後、三味線演奏をしました。



banya baseで突然はじまる三味線ライブ！

ご先祖様たちも喜んでくださったはず。。。

これからの活動

県北エリアのラジオで、民謡番組の制作をしています。放送から半年、今後は常陸太田市内からの公開録音会を開催する予定です。

ユーチューブ動画にも放送履歴を残していくので、常陸太田市の魅力を発信していきます。

公民館や集会所など、市民の皆様に近い距離での演奏活動もしていきたいので、演奏や公開録音できる会場を募集中です！

また、学校・保育園等を中心にやってきた和楽器体験会にも力を入れ、より多くの子どもたちに日本の文化の良さを伝え、同時に移住者から見た町の魅力や課題を伝えられたら良いと思います。

演奏活動を通して、市民の皆様と交流し、少しでも空き家バンクへの登録数を増やしていけるように、常陸太田2年生、がんばります！

ママの目線で、子育てじょうず 常陸太田市の魅力を発信!



はしもと
橋本あゆみ
東京浅草よりUターン・2年目
(令和2年11月～活動開始)

性格
明るく元気

趣味
鉄道旅行・ヨガ

スキルアップしたいコト
映像・音声編集

ファミリー移住

旧水府村中染、世矢地区にルーツがあり、学生時代までをこの土地で過ごしました。親や学校だけでなく、地域のたくさんの方たちに見守られ、まちに育てられていたなあと振り返ります。

民謡の全国大会優勝をきっかけに上京し、本格的な音楽活動をはじめ、同業の夫と所帯を持ちました。子育て期間中が保育園待機児童問題、コロナ禍の孤育て問題に直面し、移住を決意。ふるさとである常陸太田市へ、家族とともにやって来ました。

ファミリー移住は、家族全員が同時に新生活に突入する為、二拠点居住で土地に慣れ、協力隊として活動できる期間で、職・住・教育環境を整え、今後の定住につなげられるよう、自分たちのペースで段階を踏んでいます。

コロナ禍で地方移住への関心が高まる一方で、ファミリー移住を実行する為には、かなりの労力を要することを体感している。このヒストリー自体をひとつにモデルケースとして、ありのままに発信することを心がけています。

ラジオ放送や、記事作成を通じて、子育てじょうず常陸太田の魅力を発信しています。



「FMひたち」では
県北情報を発信中!



当市PRのために企画したあおぞらマルシェや、常陸太田内でのイベント、普段の暮らし方など、盛り沢山の2時間生放送!



「FMだいがご」は
常陸太田市内での収録



メゾンケンボクでは、番組初の公開録音を開催できました。今後も、常陸太田市内各所から、地域情報の発信や、地域の皆さんの歌声を取り上げていきます。

おかえりなさい

協力隊に着任してすぐに、県内の地域おこし協力隊が協働で開催するイベントがあり、ヨソモノが茨城の地域活性化のために、力を尽くしていることを知りました。

地元組である自分が何もせずにはいられず、チームの一員として企画に携わるように。一年目、二年目と、開催できました。

ふるさとに戻ってきた人たちにも、県外から移住してこられた人たちにも、これからの未来をつくる子どもたちにも、「おかえり」と声をかけられる存在でありたいと思います。



一年目(上) つくばでのイベント開催
二年目(下) オンラインでの長期開催

ありがとうとラブレターを書きました

地域おこし協力隊として、今まで以上に地域に関心をもち、歴史や文化、土地の魅力を大いに感じました。なかでも、様々な立場の皆さんが、常陸太田市をよりよい町にしていこうと行動する姿、これこそが町の宝です。

地域おこし協力隊だから、地域に関わるのではなく、この町に暮らすひとりひとりが、地域をおこしている。私もこれからずっと続けていくことなのだ。そう感じるとき、この町に家族ですっと暮らしていくための、次のステップに進もうと決意しました。

年度末を持ち、地域おこし協力隊としての活動を終了し、一市民として、子育てしよう。常陸太田市で豊かに暮らしていきます。

約一年半、協力隊として、情報発信や、イベント企画など、さまざまな活動をしてきました。

コロナ禍、子育てとの両立という「今」の自分だからこそできた活動。日々楽しむことができたのは、市民の皆さんとの暖かい交流のおかげです。本当にありがとうございました。



生涯学習センターでの賀詞交歓会にて令和3年度「チーム常陸太田」の仲間たちとOBOGとの縦のつながり、同期との横のつながりたくさんのご縁に感謝しています。



子ども達と田植えや収穫体験ができるなんて都会ではできない、ぜいたくな子育て！移住してから言葉が話すようになった長男は、はじめから「茨城弁」でした!!!

地元で愛されるチーズを目指し、 ひたちおおたチーズ工房で奮闘中！

かめい
亀井わかかな

茨城県日立市出身・1年目
(令和3年4月～活動開始)

休みの日の過ごし方

Netflixをみる

趣味

お菓子づくり

大切にしていること

感謝の気持ち

チーズ職人になる

私は、ひたちおおたチーズ工房でナチュラルチーズ職人として活動しています。地域おこし協力隊に着任する前は、茨城県立農業大学校に在学しメロンや中玉トマトを栽培していました。農業大学校卒業後は地元である茨城県で活動ができること、そして興味のあった農産加工ができることに魅力を感じ、チーズ職人として活動を開始しました。

コロナ禍で、思うように他県での研修ができなかったのですが、研修の機会をいただいた際には前向きに参加しひたちおおたチーズ工房で研修の成果を発揮したいです。そして、常陸太田市の地域おこしに貢献していきたいです。

普段は、ひたちおおたチーズ工房で活動しています。工房では、カチョカヴァロ、ストリング、モツアレラ、セミハードタイプの

さとやま、フロマージュブランそして、市内の学校給食で出されている給食用ストリングを製造しています。

また、里美で開催されたかかし祭りではチーズの販売をしました。販売をした際には、「給食で出る美味しいチーズだ！」「チーズ作っているの？頑張ってるね！」など、地元の方々から応援の声をたくさんいただきました。

これからも地元の方に愛されるチーズ作りができるように、日々努力していきます！



手作業でひとつひとつ丁寧に仕上げていきます。

地域おこし協力隊になつて

着任当時は、初めて経験することばかりで、毎日があつという間に過ぎていきました。

コロナウイルスの影響により活動の幅は狭まっていますが、それでも毎日貴重な経験ができていると実感しています。

また、常陸太田市で活動する他の地域おこし協力隊の方々にはとても良い刺激を受けています。

月に一度行われる報告会では皆さんの活動内容や挑戦していることについて話し合い、私も精一杯頑張ろうと勇気ももらっています。



活動報告展示会（11月開催）では、製品の食品サンプルやパネルを展示しました。



活動報告会のようす（毎月開催）

人生初めてのチーズ作り



十年前の私は、人生の中でナチュラルチーズを作るなんて思ってもみませんでした。

ひたちおおたチーズ工房で初めてモッツァレラチーズを作り、感動したことをとても覚えていています。

チーズ作りは工程がとても難しく温度管理や混ぜる強さなど、一つ一つよく考え、日々変化することに臨機応変に対応しながら製造しなければなりません。

まだまだ学ぶことも多く、これから技術を磨いて、成長していくことが楽しみです。

地域おこし協力隊・ナチュラルチーズ職人として挑戦して本当に良かったと思います。これからも感謝の気持ちを忘れずに、自分らしく挑戦していきたいと思っています。



ひたちおおたチーズ工房の製品
市内各所で購入可能です。



地域おこし協力隊OBが工房長をつとめる工房で、
チーズ製造の技術を磨いています。



旧里美地区給食センターが、
現ひたちおおたチーズ工房です。

なし農家としての独立に向けて、 スキルアップします！



たわらや こうき

俵谷 昂樹

東京都日野市出身・1年目
(令和3年4月～活動開始)

好きな梨の品種

恵水、あきづき

趣味

釣り、アウトドア

大切にしているコト

真剣に、楽しく仕事をする。

梨農家をめざして

小さい頃から植物に興味がありガーデニングが趣味のひとつでした。農業系の高校への進学を機にその趣味を仕事に活かしたいという気持ちが生まれ、農家を志すきっかけとなりました。数ある作物の中でどうして梨を選んだかというと、一番好きな果物が梨だったからという単純な理由でした。

元々、東京の日野市に住んでいましたが、農業大学への進学を機に茨城へ移住してきました。農業大学の研修の一環で、常陸太田市内の梨農家さんのもとで、一か月間研修させていただく機会がありました。

そこで働く中で、買いに訪れるお客さんが「この梨が一番美味しい！」と笑顔で話す様子を見て自分も農家さんのような、お客さんに喜んでもらえる梨を作りたいという思いが生まれ、お客さんに

喜んでもらえる梨を作る事が目標となりました。

また、その時に農家さんや近所の方に温かく迎えられ、常陸太田に住む人々の温かさに触れ、常陸太田で梨農家を目指すことを決意しました。

その後、地域おこし協力隊という制度があることを知り、市内へ移住し、農業の担い手として、梨栽培に関する活動をスタートさせ現在に至ります。

協力隊となってからも、研修先の農家さんや、近隣の梨農家さんの他、ご近所の皆さんにも優しくして頂き、改めて常陸太田に住んで良かったと感じながら活動しています。

作業中のヒトコマ
大好きな梨と向き合う毎日



活動1年目を終えて

協力隊に着任してからは、農業大学の研修の際にお世話になった「**虎**庄司観光梨園」で、農家になるための研修をさせて頂きました。

春に咲く花に花粉をつける受粉作業から始まり、初夏の摘果や、新しく伸びた枝の管理や仕上げ、摘果。その後の収穫、販売作業や合間にある肥料やりなど、梨の管理作業は多岐にわたります。

農業大学で経験した作業とは比べ物にならないほど大変で、元々体力が少なく、体格の小さい自分にとってはハードな作業も多かったです。

しかし、農家さんのご指導もあり、作業を進める中で少しずつ、上手く仕事が進められるようになりました。梨栽培に関する知識や技術が大きく上達したと感じています。



「果樹園せいよう」地域おこし協力隊OBの堀口さんと。
2年目は、独立に向けて活動を展開していきます。

その一方で、体力面や、人との接し方など、多くの課題も見つかりました。未熟な面も多くあることを実感したので、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

これからに向けて

今年の1月からは、「庄ちゃん梨園」や、協力隊OBの堀口さんが経営されている「果樹園せいよう」で研修をしています。梨栽培に関する知識や技術のほか、協力隊退任後の独立に向け、経営のノウハウなどを勉強しています。

どうやったらより効率よく仕事を進められるかや、昨年感じた課題を踏まえての勉強など、梨農家という経営者になるうえで大切なスキルを日々磨いています。

お客さんに喜んでもらえる梨を作る梨農家を目指して、今後も元気に研修に取り組みます！



常陸太田市内でぶどう農家としての 独立を目指しています！

まつばら かつゆき

松原 勝之

千葉県市原市出身・1年目
(令和3年4月～活動開始)

前職

公務員 (事務職)

趣味

料理

大切にしているコト

気合と根性



なぜ常陸太田へ？

千葉県市原市で生まれ育ち、専門学校を卒業後、東京都で約6年間公務員として働いていました。働いていく中で、次第に自分で事業をやってみたいと考えるようになりました。起業するにあたって、様々な産業を調べていくと農業に興味湧き、その中からぶどう農家を選択。ぶどうの生食だけでなく、ワインなどの加工品の充実に魅力を感じました。

農業をやりたい、ぶどう農家になりたいと動き出した時、農業雑誌の記事で「地域おこし協力隊」の制度を知りました。この制度に魅力を感じ調べている中で、常陸太田市が唯一、ぶどう農家として独立を目指す協力隊を募集していました。

「すぐにでもぶどう農家としてスタートしたい。」という思いから、迷うことなく応募し現在に至ります。



活動の基本は、ぶどう園にて。寝ても起きててもぶどうのことを考えています！！

関わりある全ての方々に支えられ、ぶどう栽培研修が順調に進んでいることや、大自然の中に住みつつも、車を走らせればすぐに都会へアクセスできるということがもあり、常陸太田市では大変充実した暮らしをすることができています。

1年間の活動を通じて

馬場町にある「本多ぶどう園」にてぶどう栽培の研修をしています。

師匠である本多孝文さんや、常陸太田ぶどう部会の皆さんから、栽培方法・経営・会計に関することまで、日々、たくさんのお話を教えています。

ぶどう農家の仕事は4月から9月までが、栽培・販売の繁忙期。私も昨年4月から、たくさんのお話を聞いてきました。

研修がスタートした頃は体力が無く、肉体労働の多い農作業で毎日ヘトヘトになっていました。6月くらいになると次第に体力もつき始め、キツイ作業が連日続いても耐えられるようになりました。やりたかったぶどう栽培を毎日やれている喜びを感じながら、忙しい日々があつという間に過ぎていきました。



↑妻(松原愛)と作業中



ぶどうの袋かけ→

そして、8・9月のぶどう販売。自分が育てたぶどう達が、たくさんのお客様の元へ渡っていききました。お客様からの「美味しい」という言葉がとても嬉しく、これからも頑張ろうという思いが湧きました。閑散期である秋冬は、ビニールハウスの整備や剪定作業を行います。ぶどう栽培において、最も大事なと言われている剪定作業。これまでやってきたぶどう栽培の作業の中でも一番難しい作業ですが、師匠に教わりながら、毎日一生懸命取り組んでいます。

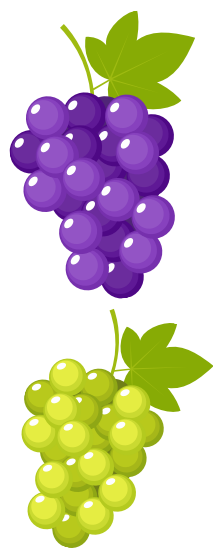
2年目の挑戦

引き続き「本多ぶどう園」にてぶどう栽培研修を継続します。

昨年はぶどうに関する技術・知識が全くない中で、日々の作業を覚えるのに精一杯でしたが、今年は、昨年得た技術・知識を活かす一つ一つの作業が後にどういった影響を及ぼすのかなど、作業の効果を検証しながら栽培を進めていきたいです。

さらに今年は自分の畑にビニールハウスを建設し、シャインマスカットの苗木を植え付けます。数年後、立派な房を収穫できるよう今まで学んだことを活かし、大事に育てていきます。

ぶどう農家としての独立に向けて、今年も全力で研修に取り組めます！



～移住者最前線～



地域おこし協力隊は、常陸太田市を盛り上げるために様々な活動に取り組んでいる地域プレイヤーですが、移住という道を選んだ「移住者最前線」でもあります。今回は、常陸太田市で活躍する5人の協力隊に、移住してきて感じている感想や想いを、市担当者が伺いました。

司会「皆さん、U-Jターン・子育て家族や夫婦、単身するなど、様々な背景で常陸太田市へ移住されましたが、住んでみて率直な感想はどうですか？橋本さんご夫婦はお子さん二人の四大家族で移住でしたが」

大輝「そうですね。今まで東京、いわゆる日本の首都に住んでいましたので、がらっと逆になった感じ。最初は、何もないじゃん！みたいな戸惑う部分もあったんですけど（笑）。子どもたちが、広い土地でのびのびと遊んでるのを見て、来て良かったなと思います。住めば都という言葉がありますが、慣れてくると、常陸太田のいいところを見いだすことができてきたなって。もちろん活動もそうですけど、アクティブな遊びとか、休日の過ごし方ができるようになりましたね。都会にいたときは、仕事終わって飲んで次の日寝て…という感じで。あんまり遊びに行かないことが多かった。家族で一緒に楽しめる土地だなって」

あゆみ「そう聞いてほっとしているその妻です。家族移住ということで、夫が茨城に果たして来てくれるかという部分が大きな課題でしたが、生き生きと家族全員が暮らせていると、来て良かったなと思います。今では子どもたちもすっかり町の子になっていて、ネイティブ茨城弁を話すようになってきましたよ」



司会「ちなみに、何もないじゃん！って最初だったのかもしれませんが、実際に来て、どうでした？何かありましたか？」

大輝「どうでしょうね（笑）。当時の考えだと、何もないってのは、いわゆる都会的なところですか。お店とか、そういう遊ぶところ。そういうのがないじゃんって。でも、実際は買い物とかそんなに不便じゃないなど。逆に、何もないがいい！みたいな場所だとも思いました。車でちょっと足を伸ばせば海も山も行けるし。大きな買い物も、周辺の町に行けばある。利便性を考えたら、何もなくなってると思います」

司会「常陸太田市の何かを見つけていただきありがとうございます！松原さんは、ご夫婦二人で東京からお越しですが、夫婦で移住してきてどう感じていますか？」

松原「皆さんも言っていますけど、買い物ができるお店も充実していますし、ちょっと車を出せば、海やショッピングモールなどが近くにあるし、充実度は正直都会と変わらないんじゃないかと思えます。東京に行こうと思えば直通の高速バスも通っていて、遊びに行こうと思えば遊びに行けるし」

大輝「常陸太田市はバランスがいいんですよね。夫婦でも家族でも遊べるし。それはやっぱり来てみて気づいたことですね！」



司会「単身で常陸太田市に来てくださったお二人。亀井さんと俵谷さんはどうでしょう。俵谷さんはもともとご実家が東京ですよね」

俵谷「そうですね、東京から茨城に移住してきた形です。もともと東京都日野市に住んでいたんですが、人が多いところとか、いわゆる都会ってというのがあんまり好きじゃなくて。アウトドアが趣味だったこともあって、常陸太田に来て単純に楽しいなって。すごく自分の性にあっているとします。大輝さんや松原さんがおっしゃってましたが、やっぱり車でちょっと行けば海もあるし山もあるし。毎週出掛けてばかりです。レジャースポットがありつつ、日頃の買い物、仕事は市内で出来ますし、ちょっと足を延ばせば色々揃えるので生活の利便性を考えたらすごく住みやすいなと思います」



橋本 大輝



松原 勝之



俵谷 昂樹

協力隊員たちの座談会

司会 「ありがとうございます！亀井さんはどうですか？」

亀井 「チーズ工房が里美方面なので、紅葉の季節だと行き帰りに紅葉を見ながら運転できるし、信号に全然止まらないで通勤できます（一同笑）。家から工房まで30分程度かかりますが、全然時間がかかっている気がしないうです」

司会 「スピードの出しすぎに気をつけてください（笑）。ちなみに亀井さんは普段休日をどのように過ごしていますか？」

亀井 「近隣の大きなショッピングモールに行くことが多いです」

大輝 「常陸太田市って色々なところにアクセスしやすいんですね」

あゆみ 「ちょうどいい塩梅ってやつですね（笑）ちなみに、日用品など、普段の買い物はどこでしているんですか？」

亀井 「普段は市内のスーパーマーケットが多いですね。家からだと車で30分くらいかな。少し遠く感じます」

俵谷 「都会と比べると、最初はそういう不便さを感じるころはありましたね。慣れてしまえば、というところではあります。やはり都会は歩いて5分でコンビニに行けますので」



地域おこし協力隊 座談会の様子（令和4年2月実施）

大輝 「遠いところはやっぱり不便かもしれないですけど。逆に、また行くのが大変だから今回はこれを買っておこう、といった計画性が身に付いてきました。以前は、そこに売ってるから買わなくていいやと思っていましたが、計画力とか決断力が実は自然的に培われるのかなど。僕は結構無計画だから。結構それで何回も行き来して、たまに、妻に怒られることがあります（笑）」

あゆみ 「移住してからそれが減ったよね！常陸太田に来て、ふらっとコンビニに寄らなくなったのはすごく大きくて。缶チューハイをコンビニで1本買うのと、6缶セットをスーパーでまとめ買いするのではコストが全然違ったりする。子どもたちにねだられて、ついつい駄菓子とかおやつをコンビニで買うっていうのが減りました」

大輝 「いきなりお酒のお話になった（笑）」

司会 「では最後に。松原さんに、常陸太田市のおすすめスポットを教えてください。終わりにしたいと思います！」

松原 「私ですか（笑）！本多巨峰園さんの藤棚（増井町1051）がおすすりめです。圧倒されます。異世界に入った感じ」

司会 「その藤棚って一般の人でも観られるんですか？」

松原 「観られます。ゴールデンウィーク明けが見頃ですので、ぜひ皆さん観に来てください！」

司会 「では最後に俵谷君」

俵谷 「っ！松原さんが最後だと思って気を抜いていました（笑）。ドライブでよく行くのですが、里美高原がお勧めです！めちゃくちゃ眺めが良い。プラトリー美（里川町863-35）で、天の川を肉眼で見たのは初めてでした。冬はとても寒いですがお勧めです！」

司会 「皆様ありがとうございました。今後、引き続き常陸太田市を盛り上げていきましょう！」



司会 常陸太田市職員 會澤 勉（少子化・人口減少対策課）



常陸太田市 地域おこし協力隊 広報誌「おかげさま」
発行：令和4年3月
編集：常陸太田市 企画部 少子化・人口減少対策課
常陸太田市 地域おこし協力隊
〒313-8611 茨城県常陸太田市金井町3690
TEL 0294 - 72 - 3111 (代表)